

## 超スマート社会の到来に向けて

---

2016年3月、科学技術・学術政策研究所所長に着任しました川上伸昭です。STI Horizon 誌夏号の発行にあたり御挨拶申し上げます。

「ユビキタス社会」が提唱されて10年以上が経過しましたが、ようやく社会の隅々まで情報ネットワークが構築されるとともに、クラウド化によって情報コストが大きく低下し、深層学習技術等の進歩によって人工知能の可能性が拡大してきています。その結果、インターネットによって構築されたサイバー空間における社会経済活動が、物理空間における社会経済活動に影響を及ぼすようになってきました。今年度より始まった第5期科学技術基本計画において

は、今後、このサイバー空間と物理空間との相互作用によって幅広い社会変革が起こることを想定して、到来する未来社会の姿を「超スマート社会」という言葉をもって共有し、その実現に向けた活動を「Society 5.0」と名付け、強力に推進していくこととして、具体的な仕組み作りが始まっています。

こうした取組を行っていく上では、現在生じつつある変化を捕捉し、十年、二十年にわたる長期のビジョンを描いていくことが重要です。当研究所では、科学技術の将来展望に加え、社会ニーズを踏まえた将来ビジョンの達成に至るシナリオまでの学際的・俯瞰的な検討を行う「科学技術予測調査」を1970年代から10回にわたり実施して参りました。しかしながら、社会と科学技術の両面において変化が加速化しつつある現代においては、意味のある変化の兆しとノイズとをいち早くより分けて未来を的確に見通すことは容易ではありません。STI Horizon 誌では、これまでの経験・知見を生かして、変化の起点となり得る各種の動向を探索し、それをキーパーソンのインタビュー記事、速報や報告レポートといった形にしてお届けして参ります。また、当研究所の調査研究活動・成果、さらには関係府省、OECD、ASEANなど諸機関との連携に基づく情報も発信していきたいと考えています。

「Society 5.0」が実現する社会では、オープンサイエンスの展開も想定されています。すなわち、科学に関する情報が専門家の枠を越えて広く提供されるようになるとともに、非専門家も活動に加わり、「共創する」関係性を創出することが想定されています。本誌では、こうしたオープンサイエンスの潮流にも配慮しながら、広く読者の皆様方から頂く御知見・御意見や対話を通じて、変化の兆しの検出にも努めていきたいと考えております。

読者各位におかれましては、引き続いての御支援・御愛読のほど、よろしくお願いいたします。

文部科学省 科学技術・学術政策研究所長

川上 伸昭

